

祖国復帰から5年 香港はいま

人民中国

北京で出版する唯一の日本語総合月刊誌

People's China

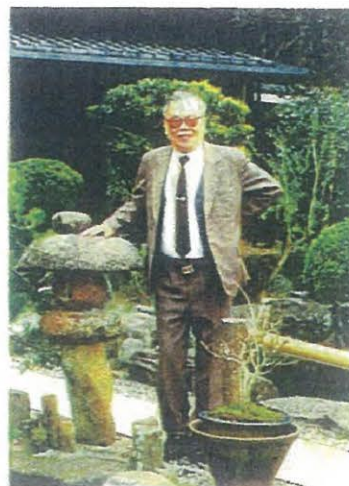
2002 7

劉備は北京っ子
世界遺産 雲岡石窟を見る
中日の懸け橋となった日本女性



黙々と友好の畑を耕す

中日民間文化交流センター主任 張碧清



今年は中日国交正常化三十周年である。三月初めごろ、私は招かれて、三十周年記念のあるイベントに参加するため日本へ行った。あちこち見学し、そこで見聞したことや感じたことを述べてみたい。

あるので、国交正常化を勝ち得るのは容易なことではなかったことを私はよく知っている。

三十数年前、松村謙三や高橋達之助ら日本の見識ある人たちは、七十歳を超す高齢にもかかわらず、千里をものともせず、はるばる海を越え、何回も中国にやってくる、夜を日に継いで会談に臨んだ。そのおかげで一九七二年に、やっと成果を見ることができた。今年の国交正常化三十周年に際し、往時をふりかえり、中日友好の井戸を掘った先輩たちに心からの感謝の意を表したい。

これらに見識ある先輩たちは

友好の井戸は枯れず

一九五〇年代の中ごろから六〇年代の中ごろまで、私は中国人民外交学会で働いていた。当時、外交学会は日本の政治家を接待する唯一の窓口であった。国交を正常化するための準公的な会談の一部に参加したことが

あいついで世を去った。今日の中日関係にはたびたび波乱や曲折が現れる。中日友好の事業には後継者がいないのではないかと皆が心配している。しかし今回の訪日で、後継者がつぎつぎと出て来ているのを知り、励まされた。後継者の中には、よく知られている友好人士もいれば、世には知られていないが、黙々と中日友好の畑を耕している人々もいて、実に敬服に値する。

島根県の小松電機産業の社長で、「人間 自然 科学研究所」の所長でもある小松昭夫氏は、後者の代表的人物である。彼はずっと中日の平和友好や文化交流を促進する事業を一つずつ、地に足をつけて実践してきたのだ。

ここ数年、小松氏は積極的に近隣諸国との文化交流を進めてきた。日本人の歴史に対する認識は、アジアの人々とかなり差があることを知っているため、小松氏は将来に対して強い不安を感じている。こうした歴史認識はすべて、軍国主義と関係があると思っている小松氏は、「国家主義と軍国主義が捲土重来してくるのを絶対許してはならない」と大声で呼びかけている。花が一輪だけ咲いても春ではない。無数の花々が咲きそろう

筆者と小松昭夫氏
(左から2番目)



てこそ存なのだ。全社員の教育のため、二〇〇一年五月、小松氏は全社の百人近い社員を率いて訪中し、南京大虐殺記念館や盧溝橋の中国人民抗日戦争記念館に行き、歴史を学んだ。彼は「前事の忘れざるは、後事の師なり」という精神に基づいて歴史を学び、現実を直視し、中日両国の子孫や世界人類の未来のために平和を守る努力をしなければならぬと言っている。企業の社員全員が歴史を学ぶため中国へ見学に来たのは、小松電機産業が初めてであるといわれる。その目的は、自社の社員を教育するだけでなく、さらに多くの人々が後からやって来るようになればいい、と小松氏は期待している。

小松氏は山東省棗莊にある台兒莊大戦記念館を参観したとき、二〇〇三年が台兒莊戦役の六十五周年なので、盛大な記念のイベントが催されることを知った。一九三八年、小松氏の故郷である島根県と隣の鳥取県の両県民によって編成された松江六三連隊がこの戦役に参加した。この戦役で中国に巨大な損失をもたらした罪を贖い、平和を祈念するため、小松氏は棗莊市と共同出資して、「台兒莊平和記念碑」を建てることを提案した。現在、中国側は建設する場所を選定し

ているところだ。設計については棗莊市政府と小松氏が相談して決め、来年の四月には完成する予定だという。中日が共同に出資し、中国に平和記念碑が建てられるのも初めてのことである。

中日両国の間では、靖国神社問題がずっと中日友好関係をかき乱す大きな要因となっていた。それは、なかなか直らない疾病のような問題だ。それを解決するため、日本ではいろいろな提案があつたが、小松氏の提案は非常に独特である。それは島根県と鳥取県にまたがる中海のほとりに「永久平和記念碑」を建てようというものだ。

日本軍国主義の侵略する矛先は、まず朝鮮半島と中国に向けられた。朝鮮半島や中国に最も近いところに平和記念碑を建てることは、平和を望む気持ちを最もよく表す特別な意義がある。小松氏の呼びかけを島根、鳥取両県民が積極的に支持し、鳥取県当局は記念碑を建てるために米子空港近くの土地をすでに用意しているという。小松氏の案内で、私はそこを見に行った。土地は広く、日本海に面している。そこで、記念碑を建てるには理想的な場所だ。この計画が実現すれば、日本と隣国との関係を改善するのに大きく役立つ。その

効果は計り知れない。

介の中小企業の経営者が、自国と隣国との平和友好事業にこれほど関心を寄せ、さらに実際に行動を起こしているのは、実に貴重なことだ。

日本でも花開く儒家文化

孔子は中国古代の偉大な思想家であり教育者でもある。孔子によって創られた儒家文化は、二千年以来、歴代の王朝に崇拝されてきた。だが、二十世紀になつてから、中国では儒家文化はジリ貧になった。だが日本では、儒家文化はずっと人気を持ち続け、孔孟の道を篤く信じている人はかなり多い。小松氏もその中の一人であり、「中庸」は彼の座右の銘である。

一九八八年に出されたノーベル賞受賞者による『バリ宣言』では「人類が二十一世紀に生存していくには、二千五百年前を振り返り、孔子の知恵を吸収しなければならぬ」と述べている。世界的な「頭脳」たちによって孔子がかくも高く評価されたことで、小松氏は大いに励まされた。一九九九年、北京で開催された孔子の生誕二千五百年記念のシンポジウムには、十数カ国の学者たちが参加した。そして「孔子の理念や教えが、現在のさま

さまざまな問題の解決に知恵を与え「と認定した。これは中国での孔子の評価がさらに高まったことを意味する。

儒教をもつと盛んにするため、小松氏は山東省蒙莊に、高さメートル以上もある孔子と孟子の銅像を注文し、今年九月に島根県に運んで盛大な除幕式を行う予定である。

最近、小松先生が主宰する「人間 自然 科学研究所」は、中日英語対訳の『論語』の豪華本を出版し、関係方面に配った。日本政府にも百冊贈った。この本の出版記念会を、小松氏は東京と島根で盛大に開催した。私は小松氏がきつとこのチャンスを利用して、自社の製品を宣伝するのだろうと思った。だが、まったく予想に反して小松氏は、商売のことには一言も触れなかった。その誠実さには感動した。

中日の儒家文化を比べて見ると、まるで花は庭で咲いたが、香りは垣根の外へ漂っていくようなものだ、と私には感じられる。古代の優秀な文化の継承は、中国より日本のほうがうまくいっていると思う。

日本経済の衰退は本当か

一九九〇年代以後、日本の経

済の衰退が十年間続いていることは、各種の統計にあらわれている。このため一部の経済学者は、日本の現状を「山川草木うた荒涼」と言わんばかりに描いている。

だが去年の末、イギリスのあるビジネスマンが日本を視察した。彼は最初、日本ではきつと失業者が街に溢れ、商店には客が少なく、人々は憂いに満ちた表情をしているだろうと想像していた。しかし日本の各地を見て回った結果、彼は驚いてこう言ったのだ。「日本のマーケットの繁栄ぶりは、ロンドンを上回ることはあっても下回ることはない」。そして彼は「日本経済の衰退説は虚構ではないか」と疑ったのである。

私は十年前、日本で暮らしたことがあり、当時の日本のマーケットについてよく知っている。十年後再びその地を訪れてみたが、その盛況ぶりは以前とまったく変わらないように感じた。

十年間も経済が低迷しているというのに、なぜマーケットは昔と同様にあれほど繁榮しているだろう。それは、日本経済がもともと実力があるからだ。今日の日本は依然として世界第二の経済大国の地位にある。世界最大の債権国であり、最大の海外

援助国でもある。およそ資金援助の必要があれば、世界の中で真っ先に、日本に目が向くのだ。しかも日本は、収支が均衡している国の一つである。今でも、一人当りの国民総生産(GNP)は、先進国の中でもかなり高い。中国では、「瘦せて死んだ駱駝でも馬より大きい」という。日本の各方面の状況を総合的に見て、私は日本の経済を悲観的には見ない。日本は必ず、一時的な苦境から抜け出し、再び立ち離陸することができると信じている。

国際協力で環境保護を

ここ数年、中国政府は環境保護に対し大量の人、物、金を投入し、かなりの成果を収めた。だが、日本とはまだ比べものにならない。今回、東京、島根、鳥取、千葉を訪れたが、至るところに青空と白雲があり、その明るさにかえって戸惑うほどだった。

島根県を視察したとき、青々とした山の中の所々に、黄色い木々がまるで斑点のようにあるのを偶然見つけた。そのわけを尋ねてみたら、中国大陸から飛んできた酸性雨のせいで抵抗力の弱い松が枯れ、そこが黄色になっっているのだと小松氏は説明

した。まったく恥ずかしい話だ。中国の環境保護事業がうまくいっていないかったため、その禍が隣国にも及び、島根県は中国に近いので、いち早く酸性雨の被害を受けたのだ。

三月二十日、北京はめつたにないほどの砂嵐に襲われた。この砂嵐は風に乗って東へ飛んで行き、韓国と日本はその被害を免れることができなかった。まことに忍びないことだ。

しかし翻って考えると、砂漠は連綿として数千里も続いているのだから、一国だけでそれをコントロールすることが果たしてできるだろうか。現在の世界は、各国の相互依存が日に日に強まっている時代である。日本の「国平和主義」がなかなか実現できないと同じように、一国による環境保護もなかなか思い通りにはいかないのだ。

現在、日本では、中国へボランティアで植樹に行くブームがおり、今年は中国に行く人が特に多いと聞く。こうした活動は、自分にも他人にもプラスになることなので、大変良いことだ。日本は環境保護の技術と資金を持つているので、これから中国や世界の環境保護に対して、さらに大きく貢献すると私は信じている。

枣庄日报

2002年2月 星期日

10

农历辛巳年
十二月廿九

ZAOZHUANG RIBAO

第7432期

国内统一刊号: CN37-0038 网址: WWW.ZAOZHUANGDAILY.COM.CN

韩喜凯会见日本客人

本报济南2月8日讯 今天下午,中国孔子基金会会长、山东省政协主席韩喜凯,在济南会见了以日本小松昭夫为团长的日本孔子文化代表团一行。

会见中,韩喜凯首先对客人的来访表示欢迎。他说,孔子是中国古代伟大的思想家、教育家,开创了儒家这一中国历史上最重要的思想文化派别,记载孔子主要言行的《论语》是中国思想文化发展史上最重要、影响最大的典籍之一。儒家学说博大精深,对人类社会文明进步和发展作出了重

要贡献,有着超越时代、超越国界的深远影响。

韩喜凯说,山东作为儒家学说的发源地,我们既感到自豪,也感到责任重大,应多为儒学研究做更多的工作。他对客人研究传播儒学的热情表示钦佩,希望双方携手合作,加强对孔子思想的研究与交流。

省委宣传部副部长、外事办主任王兆成,省外事办副主任、中国孔子基金会秘书长张树葵参加了会见。

(记者 张李鸿)

日中经贸交流代表团访问我市

马金忠等会见客人

本报讯 以日本小松电机产业株式会社社长小松昭夫先生为团长的日中经贸交流团一行7人,于2月9日来我市参观访问。当日下午,市长马金忠在枣庄大酒店会见了来访的客人。副市长李守义及市外办、市外经局、市贸促会的负责同志会见时在座。

马金忠在会见时说,值此中国传统佳节——新春佳节即将来临之际,我们高兴地迎来了日中经贸交流代表团的尊贵客人。在此,我谨代表枣庄市政府和全市人民,向远道而来的朋友们表示热烈的欢迎和诚挚的问候。

马金忠说,日本经济发

达,在科技、管理、人才和资金等方面具有很大优势。我们在经贸合作、文化交流方面具有良好的传统和极大的互补性。今天来访的各位,都是枣庄的老朋友,对枣庄的情况有比较深入的了解。我们热忱希望与各位老朋友,并通过大家,扩大与日本工

商、经贸、文化体育界的交流,增进友谊,加强合作,共创美好未来。

会上,代表团与我市领导及有关部门负责人就双方合作事宜进行了洽谈。

马金忠、小松昭夫分别代表市政府和代表团互赠了礼品。(记者 刘源江)

2001年8月 星期五

24

农历辛巳年
七月初六

ZAOZHUANG RIBAO

第7266期
今日八版

国内统一刊号: CN37-0038 网址: WWW.ZAOZHUANGDAILY.COM.CN

日中文化经济交流团访问我市

马金忠会见了客人 李守义陪同参观

本报讯 由日本第三回访中国文化经济交流团团长、HNS人间·自然科学研究会小松电机产业株式会社社长小松昭夫率领的日本客人一行5人,8月22日至23日在我市进行友好访问。

市长马金忠、副市长李守义、市政府秘书长杨家清在枣庄大酒店会见了日本客人。马金忠向客人介绍了我市政治、文化、经济发展情况以及招商引资的投资环境和优惠政策,感谢小松先生为双方之间政治、文化、经济交流做出的努力。

马金忠说,今年9月16日,枣庄将举办第二次经贸洽谈会,欢迎交流团介绍更多的日本朋友到枣庄来。

22日上午,日本客人在李守义的陪同下,参观了枣庄市恒力青钢艺术有限公司。李守义邀请小松先生共同为刚刚完工的雕塑孔子像揭幕。日本客人对该公司的雕塑产品赞不绝口,并当即拿出两张日本治水英雄的画像,订做巨型雕塑。

22日下午,日本客人来到台儿庄大战纪念馆。小松

昭夫、沉重地来到纪念碑前。小松先生说:“明年是日中邦交正常化30周年,日中两国人民愿意进一步加强文化、经济交流,渴望世界和平。但今天,日本国内却产生了不和谐音,日本首相公然参拜靖国神社,右翼分子蓄意修改历史教科书,激起了中国和有关国家人民的强烈愤慨。

台儿庄是历史圣地,遗憾的是,在台儿庄参战的日本军人中,有我家乡松江63连队的士兵,我作为他们的子孙后代,从心里向中国人民谢罪。”随后,日本客人参观了展馆及台儿庄大战全景画馆,观看了大战实地录像。在纪念馆大厅,小松先生照

“前事不忘后事之师。”

在市领导和台儿庄区领导的陪同下,日本客人乘船游览了台儿庄大运河。其间,双方还就一些合作项目进行了诚恳的磋商。23日晨,日本客人结束了在枣庄的访问。

(记者 田慧 杨军)

因为市长马金忠会见小松昭夫



日本の協力呼びかけ

中国 秦荘市投資経済交流説明会 松江



中国山東省の秦荘(ジン)で開かれ、山陰両県から「アオチュアン」市による企業代表ら約百人が参加した。秦荘市の進める投資経済交流説明会が十二日、松江市内のホテルプロジェクトが紹介され、日中両国の経済交流や友好親善を誓い合った。

山東省南部に位置する秦荘市は人口三百六十五万人で、石炭など豊富な地下資源を利用した化学工業や農業が盛ん。国共合作軍と日本軍松江八三連隊の激戦地でもある。今回の説明会は大坂、東京で開かれる同省投資貿易説明会に合わせて、同市など文化経済交流を進める「小松電機産業(本社・松江市乃木橋町・小松昭夫社長)」と「人間・自然・科学研究所(同)」が企画した。

秦荘市からは馬金忠市長ら十七人が出席。馬市長は「両国は友好三十周年を迎える。日本の技術を取り入れ、秦荘市への理解を深めてもらい、双方の発展を促進したい」とあいさつ。炭鉱開発や、特産品であるザクロを使ったワイン、ドリンクの生産など、同市が力を入れている対外協力プロジェクトを説明し、協力を呼びかけた。また日中国交正常化三十周年を記念し、同研究所が中心となって同市に環境、健康、平和をキーワードにした観光施設を設立すること

で合意した。同省投資貿易説明会は十四日、大阪マーチャンダイズ・マート(大坂市中央区)で開かれる。

中国・秦荘市への投資説明会開催

松江会場に30人参加 地域文化経済で日中交流進める



日中国交正常化三十周年を契機に、地域文化経済を通じた両国間の交流促進を目指す中国・山東省秦荘市への企業誘致についての説明会(主催・秦荘市)がこのほど、松江市内のホテルで開かれた。県内企業を中心に約八十人が参加。秦荘市での投資環境について説明を受けた。

埋蔵量を誇る石灰石をはじめ、花こう岩、石英、石灰石などの資源を有し、同省の石灰化学工業の中核都市として発展する。説明会は、大坂での同省の投資誘致・貿易懇談会にあわせて、同市と交流を進めていた小松電機産業(松江市乃木橋町)が窓口となり開催が決定した。同市は人民政府経済貿易交流団(団長・馬金忠市長)を編成し、来松高級シース生地生産や炭鉱建設など同市が進め

中国・秦荘市に観光施設

人民政府と建設で覚書

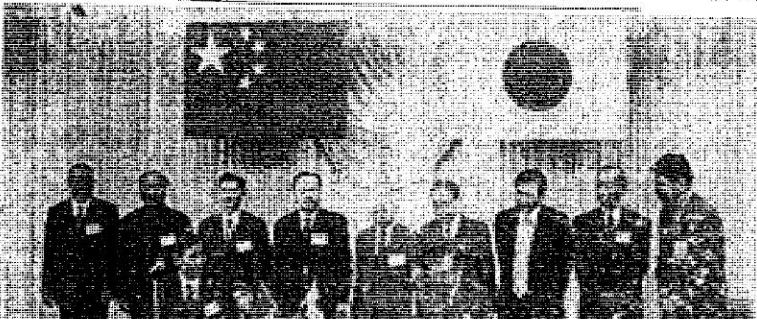
松江・HNS研究所

覚書に署名する小松昭夫HNS研究所代表ら(松江市内のホテルで)

覚書に署名した。施設は、同市の観光公園「秦荘市植物園風光旅游区」の敷地内に建設を予定。日本国政府で参加企業を呼び、同研究所と同名の会社を創設し、同市特産品の石綿(セメント)、炭(なつめ)、石灰石などを活用した観光資源の開発を目指す。

松江市内のホテルで行われた調印式には、秦荘市の馬金忠市長と小松昭夫同研究所代表らが出席。調印後、馬市長は「日中は一つ国でただけの隣邦。経済が発達し近代化が進む日本と新緑が豊潤な中国には補完性がある。より協力関係を強固にするため、基礎を固めていくことが大事。協力パートナーとして、観光、観光に力を入れてほしい」とあいさつした。

小松代表は「同業の構想について、健康、平和、環境をテーマとして、経済にリンクさせる」と説明。二十一世紀に向ける第一歩が今日から、



小松電機産業(松江市乃木橋町)の研究機関「人間・自然・科学(HNS)研究所」はこのほど、中国・山東省秦荘市自民政府と秦荘市に観光施設を建設することで合

中国棗莊市との
文化交流推進へ

松江の民間研究所

松江市の小松電気産業が運営する「人間・自然・科学研究所」はこのほど、中国山東省枣庄市と文化交流を進める合意書に調印した。

同研究所が主要な研究テーマとしている儒学の開祖・孔子が山東省の生まれであることから、数年前から小松昭夫同研究所代表が知人を通じて秦荘市民と知り合い交流を深めていた。

同市は山東省の南の玄関口で、人口約三百万人。落花生などの経済作物の栽培や冶金（やきん）が盛ん。馬金忠市長たち代表団が大阪で経済投資説明会を開くため来日したので機に一行を松江に招待。交流合意書の調印が実現した。

同研究所は調印を機に、孔子、孟子像など四体の銅像製作を同市に依頼。交流のシンボルとしたい考え。この他、恒久平和を願う碑を共同で設置する計画もしている。

台児莊、曲阜で交流会

松江・人間
自然科学研
来月初めに訪中団

こし日中外交正常化三十周年を迎えるのを記すとして、長年草の根交流が続けてきた松江市の人々を代表して、長年草の根交流が訪中中国結成の呼び水となった。日程は九月四・五日の西泊五日の予定で、関空から上海経由で行く。

今回の訪中のフィナーレに、中国政府要人数十人を含む千人規模の銅像除幕式を行う。

『論語』贈与

主国・山東省の世界石櫓（せいこ）祭、台児荘大戦記念館、嶺南のメッカ・曲阜などを訪ねる「日中地域文化経済交流会」を催す。

大戦記念館を訪れ平和祈

訪中団は小松所長（小松電機産業社長）をはじめ、総勢四十五人で、十八日までに申し込めば若干の追加参加も受け付けるという。費用は十二万四

このうち白尾荘は第二次大戦の激戦地で、松江六十三連隊の山陰出兵兵士千人余りが戦死している。求年はその六十五周年の献花をする。

意の研究所は今春、日中英三カ国語対訳の『論語』を出版したほか、中国・ファクス32-336200

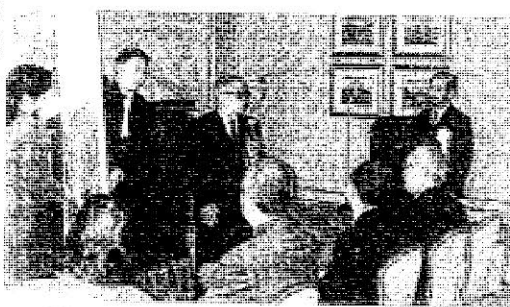
千円(国内交通費除く)問い合わせ先は電話08

人間自然科学研究所

に永久平和記念碑の建立を屢望している。その二環として、秦荘市で高さ約二メートルの孔子、孟子像な

『論語』出版記念式典

東京に研究事務所



張碧清北京中日民間文化交流センター長から山水画を贈られる小松昭夫代表㊤一東京・目白・椿山荘

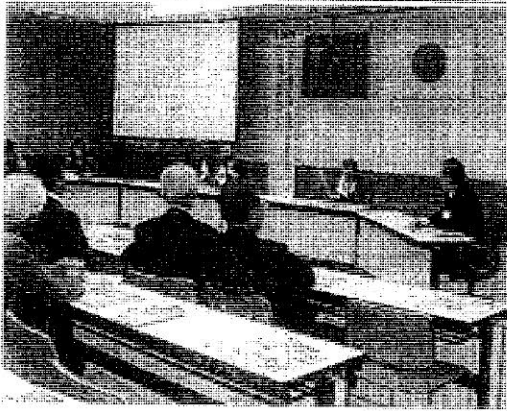
小松電機産業（本社 中日民間文化交流センターの張善清センター）・松江市、小松昭夫社長はこのほど、同社が社会問題研究などを旨指して設立した「人間・自然科学研究所」の東京事務所開設と、中国孔子基金会などに日中英三カ国語訳の贈った。

『論語』の出版を記念 同研究所は今後、全
 内のホテルで開いた。 国、アジアに活動範囲
 パーティーでは、元 を広げ、研究、出版活
 動などを展開していく
 北京大学教授で、北京 という。

日中正常化30年記念し講演会

松江小松電機
ホールで 東アジアの交流テーマに

日中国交正常化三十周年を記念し、東アジアの交流、経済をテーマにした講演会と座談会(主催・人間・自然・科学研究所)がこのほど、小松電機産業セミナーホール(松江市乃木)で行われた。元北京大教授の張建清北京中日民間文化交流センター長が日中関係を中心に講演。座談会では、張氏を含む四人のパネリストで、アジアの交流について話し合った。



追、感服のある中小企業が必要」とした。また、歴史認識、領土問題のある日中関係について、「交流なければ、理解、紹介し、努力してい

たい」と述べた。座談会では、張氏のほか、東洋技研(韓国)の曹秀煥代表理事、小松昭夫・小松電機産業社長らがパネリストとして参加。「若者が歴史を勉強することでもっと近くなる」「兄弟としての交流する」と、経済活動を

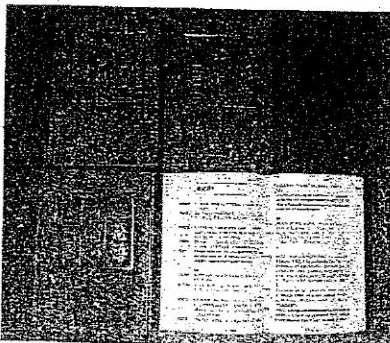
はじめ、うまく展開できると確信するなどの意見が出された。また、小松社長は、三十周年を記念して同研究所から出版された日中英対訳の「論語」を紹介。「和して同ぜず」の言葉を紹介し、交流の大切さを訴えた。

東アジアの交流について話し合う張建清北京中日民間文化交流センター長ら小松電機産業セミナーホールで

山陰経済フォーラム

2002. 2. 19 2002. 2. 19

小松電機産業のHNS研究所 論語を記念出版



HNS人間・自然・科学研究所が出版した「新版 論語」

東京事務所を開設

小松電機産業(松江)乃木福富町、小松昭夫社長)のHNS人間・自然・科学研究所(代表・小松社長、0852・32・3636)はこのほど、東京都港区のビルに東京事務所を開設。日中英三方国語対訳の「新版 論語」を記念出版した。

同研究所は「世界恒久平和を生み出す新たな文化の創造」を目指し、郷土の偉人や日中・日韓関係の研究、出版活動を行っている。これまで出雲地方を中心に活動しており、日本国内とアジア圏に活動の輪を広げるため、東京事務所の開設を決めた。

床面積は約百平方メートル。同社の手掛ける上下水道設備遮断制御監視システム「やくも水神」の展示場を兼ねる。スタッフ三人が常駐し、研究所の事業PRや研究、出版活動の情報収集などに当たるほか、研究所の趣旨に賛同する国内外の研究者を客員研究員として招く。

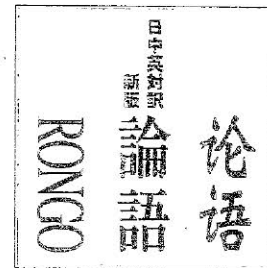
東京事務所の住所は〒105-0001 東京都港区虎ノ門五-1-31、虎ノ門40Mビル9階(03・5403・7518、ファクス同34335・1288)。「新版 論語」は、同研究所のセミナーで昨年講演した孔子の文化大学(中国・山東省曲阜)の教授の孔慶(本名・孔祥林)氏が総編集者を務めた。四百三十二頁で原文、日本語読み、日本語訳、現代中国語訳、英語訳を掲載している。原文が「子曰(いわく)」の始まり方に代表される諸篇を語録体(空句)で書かれており、どこからでも読める。非売品で三千部印刷。希望者に配布する。

同研究所では東京事務所開設と論語出版を記念し、三月十日午後二時から小松電機本社で講演会・座談会を開く。元北京大教授の張建清さんが講師を務める。会費二千円。出席者には論語を贈る。申し込み・問い合わせは同研究所。

人間・自然・科学研究所

日中英対訳新版「論語」出版

HNS人間・自然・科学研究所 務所を開設し、新たな一歩を踏
所（松江市乃木福富町七三五）み出した。
一八八 小松昭夫代表）は、サ これを記念し、世界恒久平和



HNS人間・自然・科学研究所

ンフランシスコ講和条約締結五十周年、日中国交正常化三十周年、日韓国際交流を迎えた本年、当研究所のあゆみも創立から八年を迎えたことで、これまでの出雲地方を中心とした活動から日本、そしてアジア圏に活動の輪を広げるべく、このたび、東京虎ノ門四十森ビル九階に新寧

を生み出す文化の創造をめざして、日中英三ヶ国語訳「論語」を出版した。
広辞苑によると、論語とは四書の一。孔子の言行、孔子と弟子・時人との問答、弟子たち同士の問答などを収録した書。となつてゐる。
一九八八年ノーベル賞受賞者

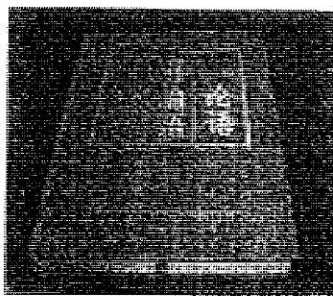
バリ宣言において、一人類が二十一世紀に生存していくには二千五百年前を振り返り、孔子から智慧を探る必要がある。また、一九九九年孔子生誕二千五百五十年を記念して北京で開催された、儒学と二十一世紀の人類社会の平和と発展シンポジウム（十七カ国参加）では、一孔子の理念と教えが現在の諸問題に智慧を与える一ことが確認された。これを踏まえて、今回の出版となった。

孔子の名言集に「その身正しければ、令せずして行なわる。その身正しからざれば、令すといえども従わず」とある。

要約すると、自分の行ないが正しければ、命令しなくても人はついてくるし、そうでないときは命令してもしたがわれない。およそ人の上に立つほどの者はかならず心すべきこと、となつてゐる。

今回出版の三ヶ国語訳の論語は書店にはなく、入手の問合せ先は、人間・自然・科学研究所 電話：〇八五二二二二一三六三六 担当・須藤まで。

Chinese Dragon 2002年(平成14年)3月5日



日中英対訳「論語」を出版

日中国交正常化30周年記念

人間・自然・科学研究所（HNS）研究所・代 記念し、日中英対訳「論語」を出版した。和を生み出す新たな文化の創造をめざして運動を、日本語訳、広めていきたい」として

現代中国語 8日には、フォーシー

訳、英語訳で ズンズホテル椿山荘（東

る。総編集者 京都市文京区）で出版記念

は山形県山形市・孔子文化 所開設記念を兼ねた講演

市・孔子文化 会と披露パーティーを開 大学教授であ 催する。元北京大学教授

り本紙編集主 幹の孔健が務 以北京中日民間文化交流

センター主任・張鶴清氏

の講演などのほ S研究所が提案 「平和記念碑」への呼び掛けを 同研究所では した「論語」を へ100冊、中 基金へ200 同会では希望者 ット1万円であ

る。

「論語」出版

日独「さくらの女王」の手を握り笑顔の小泉首相一語
相宮邸で4日午前、松田真徳写す



日独桜の女王が
小泉首相を表敬
小泉純一郎首相は4
日、ドイツ・ハンブルク
さきの女王のアンネ
マリーゼ・マーンと
本さんの女王の浅
玲子さんの露敬語を
けた。相は「栗の桜は
今年開花が早くも、
ついにまた、もう数
いながら、国女王、
シレーダー、独相
クラシック音楽の
プレゼントされた
話を披露した。

連立の維持より“小泉流”大事？

和して同ぜず」首相連発

「君子は和とて同ぜず、小人は同じて和さす」と。小泉純一郎首相がこの論語の一節を多用している。4日配信の小泉内閣メルマガジンの「いおんはーと」のコーナーでも引用し「君子は他人とよく心を合わせて事に当たる。政治や行政に対する国民の信頼が揺らいでいる。心を合わせて努力しなければなりません」と決意を新たにさせている。首相がこの一節を引用したのは、2日の新制採用公務員の研修開講式が最初。首相は「一人の意見に付和雷同せず、自分自身で考える人間であってほしい」と激励したが、首相周辺にもっとも「事務局が用意したあいさつ文に首相目の押入したとい

う。かなり拍気入りのフレスとみられ、首相は3日の自民党の青木幹雄参院幹事長らとの会談でも、武部勤聖相の統投をも決定するにあたり、一旦公保3党がすべての政策で足並みをそろえるということをなす。『和して同ぜず』といふこともよくある」と述べた。

官僚に論語のスス

人蘭院がこの書、奨励する課長級対象の公務員研修で、加地伸行・大塚大名義教授（中国哲学）を講師に迎へ、古典の中の古典「論語」の研究を行つてくゝになった。疑惑も不祥事の相次ぐ外務省を、はじめる義が闊の言傳に、王守の教を聞く耳があるかといふか？

【鈴木琢磨】



加地伸行
名誉教授

莫知が凝縮した古典を精
み、考えてもらいたかつ
た」(根本康王・公務員研
修所教務部長)

定員は30人。各省庁の課長級約20人、官民交流の観点から民間からも約

それにしても古代から日本の政治家、官僚に影響を与えてきた「論語」

は手厳しい。とりわけ外務官僚に対しては「遠慮の極み」とまで表現する。

大学教授で哲学者の露田
濱一さんの「ソクラテス

はあっても知恵がありま ちよくないが、微塵よ
せんよ」 はみみちいほつがマ

の弁明」の2コースある。

「儒教」学の第一人者で、だという意味です。ぜひある加地さんの言懐批判、たくさんまいの天啓書な

日本の政治家、官僚に影響を与えてきた「論語」

[illegible]

春の研修で採用
「奢れば不遜」訴え



1050001

港區虎門五一三一

虎ノ門 40 森ビル 九階

人間、自然、科学研究所
代表小松昭夫様

内閣総理大臣官邸

〒100 東京都千代田区永田町二丁目3番1号
電話 (03) 3581-0101 (代表)

人間・自然・科学研究所
代表 小松 昭夫 様

このたびは、日中英対訳「論語」をお送り頂き、ありがとうございます。この発刊を通じて、恒久平和を生み出す新たな文化の創造を目指される小松さんのお気持ちを胸に、大いに活用させて頂きます。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

平成14年3月26日

小 泉 純 一 郎

島根の魅力広めたい」

中国・青島の
マスコミ代表団
**P R 目的に
来県**

中国山東省青島市のマ
松靈機産業社長）の代表
スコミ代表団が二十五
団が今年二月、青島市を
日、県内を訪れた。日中
訪問したのをきっかけに
間の友好関係を深め、青
来県が実現した。
島の魅力を中国でPRす
島根を訪れたのは、青
るため、企業訪問や観光
臺市のテレビ、ラジオ
などをした。
局、新聞社の社長や編

高根を訪れたのは、青島市のテレビ、ラジオなど。青島市の観光地も訪問した。

同市対外文化交流協会の王永生会長（左）は「今年には日中国交正常化三十周年に当たり、意義ある訪問になる。皇根の素晴らしい自然や企業を、ぜひ中国で広めたい」と話した。



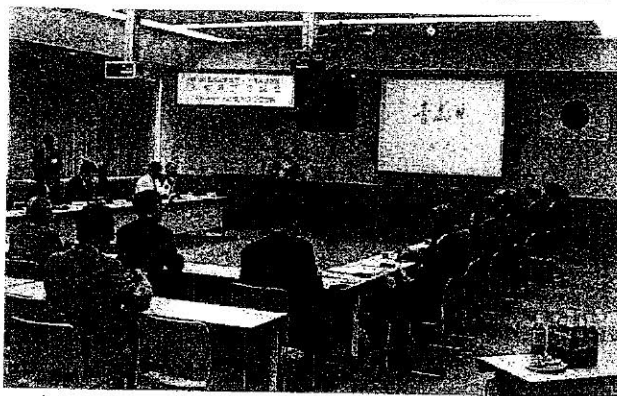
県内企業の作業環境を改善する青森市のマスコミ
代表団

2001. 8. 21

山陽新幹線

青島人民政府(中国)と経済交流

小松電機産業のHNS研究所



小松電機産業で開かれた「中国青島市人民政府・中海共道湖
国文化経済交流会」＝松江市乃本福喜町

中海・六道湖圏の企業
副市長ら6人が視察

小松營造産業株式（松江市乃木福富町）小松昭夫社長、
0852・32・3638）のHNS研究所（同、小松昭
夫代表）はこのほど、中国山東省・青島市人民政府の關係
者六人を招き、交流を深めた。一行は米子市や境港市、松
江市内の企業を訪問、経営の實態を視察した。

縁で、周嘉賓副市長らの訪日が決まった。

研究や出版などの活動を行っている。今年五月には約八十人の訪中団を組織し、中国の西安、曲阜、濟南、北京を訪問。山東省の省都・濟南での交流などが

青島市人民政府の一行は六人で、團長は周副主席。〈樹ダイヤモンド〉（米子市旗ヶ崎）などの企業を視察し、小松製機産業本社の「中国青島市人民政府・中海空

道湖園文化經濟交流會」に臨んだ。青島市のメンバーをはじめ、小松代表、大島鶴（松江市乃本福富町）の古賀隆昭社長ら計約三十人が参加した。

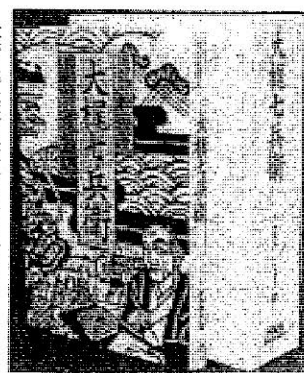
(株) 松江市西嫁島一丁目) の後、藤原信社長が「山東省は日本に近く、海を通じてこれから交流が急増するだろう」とあいさつ。周副市長は「島根、鳥取の企業を訪問し、経済発展するとの強い印象を持った」と話した。

岡崎市長らは青島市の現況や青島に進出している日本企業、青島港の規模、取扱量を紹介したほか、八月十八日・九月二日まで開かれる「青島国際ビール祭り」、十月に開催される「中国青島国際葡萄酒（ぶどう）酒技術及び設備博覧会」のプレゼンテーションを実施。日本側は小松電機産業の小松光雄専務が同社のヒット商品である「シートシャッター門番」や「やくも水神」の説明を行った。

小説・治水の偉人 大樫七兵衛

寺井 敏夫著

義民の遺業克明に描く



本書は、出雲の高津川開拓など治水・開拓事業に尽くした大樫七兵衛の、親子孫三代にわたる苦闘を描いた伝記小説である。松江藩とのあつれきから種子二代が悲運に終わり、三代目にしてようやく急務を達成、名実を回復するという壮大な物語である。

通説として、出雲平野の開拓にかけると七兵衛の志の高さを、わが身の不幸を諷刺する大樫家三代の献身的な働きぶりを克明に描いた、スケールの大きさに圧倒される。

特に、作品が読者の心を捉えているのは、作者が「義民の恩恵」で主人公の七兵衛をとりあげているからである。周知のように、義民とは、封建時代に社会の底辺にいる農民や町人のために、わが身と身代をなげうって尽くした人のことである。大樫家三代の治水事業は、まさに食しさにあぐらをかき、出雲地方の農民を救うための義民による義舉であった。

主人公が活躍した一六〇〇年代は、戦国時代が終わりを告げ、各藩は藩主の命令で新田開拓に伴う治水事業を推進した時代であった。松江藩も財政を確立するため、出雲平野の開拓は至上命題であった。

低産、七兵衛は農民を貧困から救済したいとの一念、治水事業に没頭した。これらの治水事業で、出雲平野の米作は一挙に一五石以上の増収になり、妻伊川から藩府を通じて奥出雲・日本海への物流が可能になったのだから、いかに大事業であつたか分かる。

財政の確立を目的とする松江藩と、貧しい農民を救済しようとした七兵衛との対立は不可避であった。大樫親子に地所・身分の剥奪(はくたつ)、如刑などの数々の理不尽な災難が降りかかる。

作品は、計算された構成と平明な文章、老練な語り口、出色の出来栄になった。

作者は元NHK編集者、現在、島根県文学館理事として活躍。これまで『大樫七兵衛』『隠岐の島』を出版して注目を浴びている。ぜひ一読を勧めたい。

(池野誠・島根県文学館館長)
(HNS人間・自然・科学研究所・二四〇〇部)

日刊工業新聞 2002年(平成14年)8月27日



出雲の偉人「大樫七兵衛」

HNS人間・自然・科学研究

所(松江市、小松昭夫代表)小

松電機産業社長、0852・3

2・3636)は、開拓と治水

に生涯をかけた出雲の偉人「大

樫七兵衛」を描いた児童文学

(村尾靖子著)、小説(寺井敏

児童文学・小説・漫画の3部作 HNSが出版

夫著)、漫画(寺戸良信著)の3部作(写真)を出版した。

いずれも、未来をみすえ、時代を超えた人間愛、郷土愛の大切さを訴える。初版は3000部。価格は3冊組セットで4200円(消費税込み)。同研究所が発行する「人と水のシリーズ」3作目。

これまでに郷土の治水の偉人として「岡藤彌兵衛」、「清原太兵衛」、いずれも3部作を出版している。同シリーズは、HNSが提唱する「心と高い志を通して地域の振興を図る」という「一村一志運動」の一つ。

HNS研究所の「太陽の國 IZUMO」（税込2500円）が、刊行された。地域づくりの手引きとしても、混沌の現代をより豊かに生きるためには何をなすべきかを考える上で、少なからぬヒントを与えてくれるはずだ。

しかもこれは社会評論家や宗教家、あるいは行政が書いた本ではない。地域で、地域とともに、未来を見詰めながら、大宇宙を生きていることを命題としている企業が、ユートピアのモデルとして山陰を舞台に「太陽の國出版」とを付けて、二十一世紀のこの地方の理想的なありようを、具体的に示したものである。

もちろん空想・空論ではない。「今日、世界は環境破壊と地域紛争の多発によって人類破滅か、それとも共通の目的を見いだして的確な役割分担と合意形成の中から、みんなが心豊かに生きて天寿を全うできる地球社会を創造できるかの岐路に立たされている」との現状認識は、多少皮相的だとしても異論をほさぬ人はいないだろう。

そして本文で「太陽の國出版」の目的「人類と人間」「いま

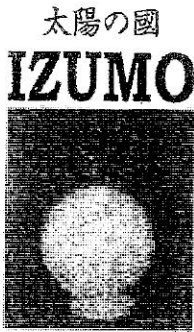
地域づくりの具体的な処方せん提示

地球は「何をなすべきか」と章分けて人類が歩んできた歴史を、関係の新聞雑誌記事なども引用して大観した後、山陰地域の歴史的、地質学的な背景と特質に照らしながら「心の首都（松江市市街地再開発構想）」「ゼロエミッション・小規模理想郷（中海・宍道湖圏域の新構想）」など地域づくりの具体的な処方せんを描く。

本書を出版したHNS研究所は、シートシャッターと下水などの浄化プラントメーカーとして知られる小松電機産業（本社松江市）が、人間・自然・科学という極めて今日的、哲学的テーマを追究するために設立した機関で、本書は主に小松電機社長の小松昭夫氏自身が執筆したものだ。

HNS研究所は「一村一志運動」を提唱、これまでに江戸時代末、独力で島根県八雲村の切り通しを開削し、恒常的だった意平川の氾濫（はんらん）をなくした伝記「須藤弥兵衛」同じく宍道湖の氾濫から松江を救うために陀川を開削した「酒原太兵衛」などを出版しているほか「中海本庄平広の未来構想シンボ」を「緑のすびシンボ」とユニークな公開会議を開催。

今年も十月三十日、松江市のくにびきメッセで環境微生物学の権威・高嶋康毅博士らを招き「千年記念事業太陽の國/IZUMOシンボウム」を開く。



HNS研究所発行

工業新聞

Business & Tech

混沌状況を打破し 国際共生社会を

【松江】小松電機産業社

長でHNS（人間・自然・科学）研究所（松江市乃木福富町、0852・32・3636）所長の小松昭夫

さんが、21世紀の地球のあり方を提案する「太陽の國 IZUMO」（A4判、154頁、2500円）を発売した。

著書は現状を混沌の世紀末と指摘し、この状況を打破するため国際共生社会を提唱、そのための具体的な

プランを提示している「心のインフラ整備」「感謝と戦争の歴史記念」「心の首都（松江市市街地再開発構想）」「ゼロエミッション・小規模理想郷（中海・宍道湖圏域の新構想）」「未来を拓く研究教育機関」に4大別、地方に当ってはめて事業提言している。10月に演会も開催する。



長の小松HNS研究所「太陽の國 IZUMO」が発刊した

現代中國に生る孔子

た。広大な敷地に六つの学院、計三十五の専攻科が設けられ、孔子研究所や山東省儒學研究センターも学内にある。教職員千九百人余り、大学院生と本科生（四年）、専攻生（三年）を合わせ二万人以上が在学しているほか、約九千人が通信教育を受けているという。大手本館は四里の十階建て。文化広場の大孔子像は、新緑に映り輝き天を穿つくばかりで、堂々たる風情、いつと温かみあふれる気は

句と詩で敬仰の思い交わす

伝説も引用して歓迎の気持ちまで込める一方、自説を疑問でなく、疑問への答へを肯定もめづられて

中國は日本文化のルーツであり、中國文化を消化して日本で花開いたものが多々あるのだから、日本人は忘れてはならない。その意味で筆者にとって、句と蘭語の交流が表現したのは何となくいってよかった。また、孔子文化大學の隆盛なりや孔子廟に参拝するおびただしい人波を面の当りたりにして、孔子が現代中國の人々の中に横切っていることを象徴したのである。

大学の槐石葉や孔子像
新緑の石壁をみ孔廟へ
孔孟の地であり日本立

孔祥熙、宋子文、宋美龄、宋霭龄

（黎明子・俳誌「域」同人、松江

在女子醫院)

HNS研究所第二回訪中研修団

小松昭夫社長・孔子文化大学客員教授に推される
研究所と、同研究所の母体である
小松電機産業(松江)
江津市乃木福富町 松江
湖南テクノパーク第七
号 小松昭夫社長)主
催で、中日文化経済交
流団中国視察ツアー一
行八十名は、五月七日
出雲空港に着陸、訪中
研修を有意義なものとし
て解散した。

中国文化経済交流団
中国視察ツアーに当たり、
同行した原田トレ
ーディング(松江市
嫁島町)の原田弘吉代
表取締役会長は、それ
ぞれの視察地の情景を
描写した紀行を綴って
いる。その中から次の
ように選句してみた。

(排字場明子)

〈西安〉

長安の城門高し夏燕

桜門の空高く、鋭い声を発して
燕が飛び交っていた。

夕焼けて大雁塔の階上る

黄塵の空が淡く夕焼けて、七
層の大雁塔の壮麗な姿は、正に
西安のシンボルである。

若葉して大師求法の青龍寺

健求法(ぐほう)。湖の緑、
池をめぐる杜若(かまつばた)
——日本式庭園に心が和む。弘
法大師がはるばる遠い異国の地



【中国人民抗日戦争記念館】にて

〈済南・曲阜〉

大黄河ほとりの町や柳絮とふ

健柳絮(りゅうじょ)。黄河
に近く泉の多い美しい済南の町、
柳の絮(わた)が風にとんでき
て暖かく我ら一行を迎えてくれ
た。

済南より専用バスにて曲阜の
孔廟、孔府、弘林を訪う。

孔子文化大学にて

聖風や弘大教授授けらる

小松昭夫社長、孔子文化大学
客員教授に推される。

新緑の石畳、み孔廟へ

孔子の仁徳は、今も中国の人
たちの崇敬を集め、参詣の人で
溢れている。

桐咲くや孟子生まれしところにて

聖廟と金文字で書かれた立
派な額門をくぐり孟廟に参拝
する。「孟母三遷の教え」で名
高い孟子の母の墓を拝む。空は
晴れ、一帯に桐の紫の花が咲い
ていた。

〈北京〉

中国人民抗日戦争記念館を訪
ね、中国人民に如何に大きな損
害と苦痛を与えた戦争であった
かを色々の展示の資料を見て知
る事ができた。

小松昭夫は意書を読み上げ、
中日両国はもとより世界人類の
恒久平和につながる、強固な友
好関係の樹立を訴え、花籃を供
え、寄付金を贈呈された。セレ
モニーのあと、記念館館長を囲
んでの懇談会は誠に和やかな語ら
いのひとときであった。

臺灣橋の渡り度りぬ若葉雨

臺灣橋の現地に、中国人民抗
日戦争記念館を視察したあと、
北京市街に入る。

アカシアの花咲きめし北京立つ

連日、六時モーニングコール
につづく視察のハードスケジュール
に、少し疲れて異風邪をひい
たが、一行八十名、事故もなく
それぞれ楽しい思い出を胸に帰
国した。

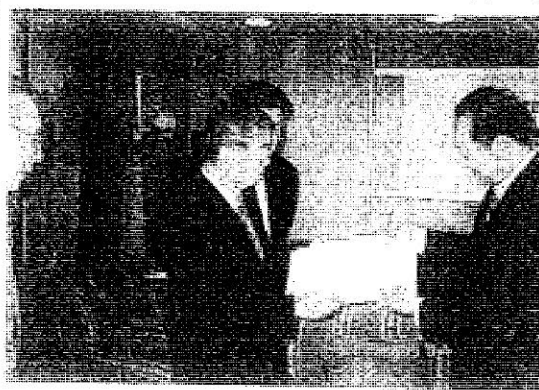
謝々

HNS (人間・自然・科学) 研究所 小松電機産業

「抗日戦争史研究暨和平教育基金」へ
記念館訪問を契機に百万円を贈呈

HNS (人間・
自然・科学) 研究
所と、小松電機
産業(松江市乃
木福富町七三五
一八八 松江湖南
テクノパーク第七
号 小松昭夫社長
は、同グループ主
催で日中文化経済
交流団中国視察ツアー(小松昭
夫代表)を五月二日から七日の
日程をたて行なった。今回は第
二回目(一回目は昨年九月)で
会社側としては、中日両国民の
対話の輪が広がること
を祈念して、今後毎年
一回をメドに視察ツア
ーを継続して「行こう計画
を立てている。

第二回訪中研修団の
趣意書を要約すると、
ユーラシア大陸の東端
に位置する日本列島は、
古くより中国、朝鮮半
島から、様々な技術や
知識、文化を享受し、
四季の変化に富む豊か
な自然の中で、種文
化を中心に国家を形成
千六百年以降、三百年
に及ぶ世界史上例のな
い平和な時代を築いた。
十九世紀中頃、アメ
リカ合衆国の開国要求
を契機に、世界の植民地戦争
に恐怖を受けた日本は、産業革
命で生まれた革新的な西洋文明
を取り入れ、明治維新を断行し
た。その後、国内外の劇的変動
のなか貴国を初め多くの国々に
歴史的災難を与え、禍根を残し



百万円贈呈式、左側小松社長

が必ずしも良好でない状況下、
両国の多くの方々の努力により、
古くから日本で縁結びの地とい
われ、歴史的にも中国大陸と深
い繋がりがあった「出雲」から
中国南方航空特設便にて、中国
人民抗日戦争記念館をはじめ、

ご招待
小松電機産業(株)展示ブース
1ホール 小間番号 1-39
入場無料
下水道展'01東京
主催 社団法人 日本下水道協会

トワークシステム」と、
構成する「新マンホールギ
制御盤」処理施設制御盤
置「新パッケージ水神」を
発表する(特許申請中)。
テム詳細などについては、
電機産業へ問い合わせると

吉都西安、済南、曲阜、
首都北京の訪問を実現し
とを心より感謝します。
趣意書に添えて、貴国会
を契機に、「抗日戦争中
和平教育基金」に百万
円を、今後ともご支援の
しくお願い申し上げます。
を述べた。

第一回訪中研修団
団長 小松昭

小松電機産業
下水道展

小松電機産業(松江市
富野七三五一八八 電
五二一三三三 三六八三
「下水道展'01東京」が開
るに当たって、下水道
制御・監視システム「新水

【寄稿】

雨の蘆溝橋

常議員

原田トレーディング(株)会長

原田弘吉



記念館を前にした視察団一行

昭和12年7月7日、蘆溝橋爆破で口火を切った日中戦争は、小生が旧制中学校2年の時で、兄たちの同僚が、次々召集された事をはっきりと覚えている。

今度HNS(人間・自然・科学)研究所主催の中國大陸を旅する視察団の一員として、去る5月、北京近郊の蘆溝橋のそばにある、中国人民抗日战争記念館を訪れた。規模壮大な本館の六つの展示ホールほかに、一つのハーフ、パノラマ館と二つの四合院の臨時展示室もあり、展示総面積は5千余平方メートルに達する。

この記念館は、日中戦争を記念し、民族の独立のために身を献げた烈士たちを偲び、後世の人々を激励して、中華民族の浩然たる正気を永続させるために建てられたと記してある。館内

の数々の写真や色々な展示の資料を見て、この戦争で中国人民に如何に大きな損害と多大な苦痛を与えたか、日本人として胸痛む思いで見学したのである。

昔、われわれは孔子の論語をひもとき、李白や杜甫の詩を誦し、また中国と日本とは、古くから互いに文化の交流を通じて、深い結び付きの間柄であった。

小松昭夫団長は、記念館館長を前に、趣意書を読みあげ、長い歴史の中で不幸な過去の一時期があったが、「前事不忘 後事之師」一前におこなったことを忘れないのは、後のことをするのによい参考になるの意。一史記の言葉を引用し、歴史に学び現実を直視し、21世紀は、中日両国はもとより世界人類の恒久平和につながるよう、強固な友好関係の樹立を、声を大にして訴え、花籠を供え、一同合掌したのである。

セレモニーのあと、貴賓室で団長から寄付金の贈呈が行われ、終って記念館館長を囲んでの懇談会は、誠に和やかな語らいのひとときであった。席上思わぬハプニングから、小生が安来節をうたう羽目になり、老いらくのノドをふり絞ってうたいあげたのも、一興であったであろうか。

折りしも降り出した小雨の中、一行は傘をさして蘆溝橋を訪ねた。

乾期で涸れた、2百メートル余りの川に架る橋は、石造りで、欄干の柱には石獅子の彫刻のある立派なものであった。

64年前の昔の事が夢のように思われた。

若葉冷えして蘆溝橋雲重く

蘆溝橋渡り戻りぬ若葉雨

黎明子



花籠を供えた視察団一行



安来節を歌い終わって館長と握手する筆者



小松昭夫氏

難民申請をしていた中国人女性が出産し、この母親が失踪し残された女兒への支援活動、また明治以降の日本による中国・朝鮮の侵略をテーマとした劇「再会」のバックアップなどを手掛けるHNS(人間・自然・科学)研究所。この研究所を開設したのが、島根県の電機メーカー、小松電機産業。同社はコンピュータと制御装置・センサーをシステムの組み合わせで、新

企業は人なり

4

研究所開設で社会に貢献 反戦劇と中国人孤児支援

小松電機産業
代表取締役 小松昭夫氏

しいテクノロジーに挑戦する制御システムメーカーだ。もともととは制御装置や配電盤のメーカーだったが、現在では上下水道施設の遠方監視自動制御装置をはじめ幅広い展開をしている。

身内、友人の死を通して、死家の果す役割だ」そう語る小松氏が社会問題、環境問題を同時に解決するモデル事業として立ち上げたのが、HNS(人間・自然・科学)研究所。同研究所が、中国人女性の女兒支援活動、前述の劇「再会」のバックアップをしたのもこういった考えからだ。

代表取締役の小松昭夫氏は、七三年に十萬円の資金と一台の中古車、工具箱一つで、弟と二人で身を起した。途中様々な苦境を乗り越えた小松氏は「人にとって大事なものはV S O P」と述べる。若い時には「V」バイタリティにバラエティ。いろいろなことを一生懸命にやる。そうすると一つくらいものになるものが出てくる。それが「S」スペシャリティ。ところが思うようにはいかない、社会の波にもまれて、自分なりの人生観、「O」オリジナリティが生まれる。そして、時を経て、求められる、これが事業「人の心のインフラ整備が求められる、これが事業

そこで必ず通過するのが会社だ。小松氏は会社という概念を、家族が生きるためにする「家業」、同じ生きるなら我欲を最大極限まで追求する「企業」、その我欲を抑制し理想的な社会へ誘導する「事業」と、三つの業として考えている。そして企業活動というのは一般的に船に見立てられる。人が集まり、より堅牢で設備の整った船を作り、船団を作って大海原を航海する。事業とは、その海を理想的な状態に作ることなのだ。

「人の心のインフラ整備が求められる、これが事業

「創業者というのはどうしても自分の会社で固執する、後継者の養成が難しくなる。だから、自分の会社よりも他のことに目が行くと、結果として後継者が育ちやすい環境が生まれるのではないかと(笑)」と朗らかに話す小松氏の目には、自身が理想とする「天寿が全うでき、楽しく愉快に持続的に生きられる地球社会」がくつきりと映っているのだろう。

追蹤報道 小松社長呼籲 李雪梅來本報受捐



小松昭夫社長

進行反思。此外他還向北朝鮮災民捐款了五百萬日元，在自己會社招收新人時，他注意招收中國留學生，力所能及地促進中日友好交流。按小松社長的話說就是想為中國，為中國人做點事。

在採訪時，記者代表本報也代表全體在日華人對小松社長對在日普通中國人及子女的關懷表示了感謝。小松社長也表示，希望通過本報能盡快找到李雪梅。

本報訊(記者 沙飛)本報上曾登出尋找受捐代理人李雪梅的《特殊尋人啟事》為了進一步了解情況，1月11日上午記者在小松電機產業株式會社東京支社採訪了小松昭夫社長。

在採訪中記者進一步得知，小松社長之所以能在島根縣發起為雪梅女兒捐款的義舉，是有其深刻的思想根源的。小松社長對於日本過去有著清醒的認識，他曾到南京“侵華日軍南京大屠殺紀念館”、蘆溝橋、旅順日俄監獄舊址等地對日本的侵略戰爭

在採訪中記者還發現，小松社長還是位熱愛日中文化交流的有心人，他所領導的(HNSC人間·自然·科學)研究所不但編導出演了反映“殘留孤兒”經歷的反侵略戰爭劇《再會》，而且還親自著書論說日中友好的重要性，所以他身邊聚集了一熱愛日中文化人。因此，記者在採訪中還有幸見到了日本著名的作家早川和宏和漫畫家小室孝太郎，在採訪結束後，大家還暢談與展望了新世紀的日中友好關係等。(相關報道請見本報上期第4版)

東庄日報
2002年9月6日



HUA FENG

華風新聞

在日首家娛樂新聞週刊

第89期
2001年10月10日發行

每週二發行 定價：每份250元
發行所：東京實業株式會社

http://www.hkfu-web.co.jp
E-mail: hkfufu@hkfufu.co.jp

24小時均一價格
全國通話135分

日本小松代表團拜會市政府

馬金忠等市領導會見日本客人

本報訊：昨日下午，以日本小松電機株式會社社長小松昭夫為團長的日本小松代表團拜會市政府。市委副書記、市長馬金忠，副市長李守義、吳華盛，崔榮及市政府秘書長楊家道等會見了日本客人，雙方進行了友好地交談。

馬金忠說，你們千里迢迢來參加第三屆中國東北投資貿易洽談會，我謹代表遼寧市人民政府和全市360萬人民，表示熱烈歡迎和衷心感謝！小松社長一直致力於中日兩國的友好事業和領域的合作交流，是中國和遼寧市的老朋友。今年的投資會第三屆，規模比往年大，參會外商人數比往年多，希望在這的新老朋友們借此機會多參觀、多交流，尋求和創造商機，促進雙方合作交流。

馬金忠說，小松先生一行逗留期間，除參加大會開幕式、項目洽談等活動外，還要舉行旨在促進中日友好和文化交流的孔子第4尊銅像啟運揭幕式，向台兒莊大戰紀念館捐贈、獻花等活動，日程比較緊張，希望各位保重身體，生活愉快，祝中日友好和領域的交流合作取得更大成果！

小松昭夫說，我曾多次來遼寧訪問，每次都有新的感受，3年前我以貴客來遼，路上用了8個小時，這次來不僅很順利，而且時間也大大縮短，說明遼寧市及周邊地區有了大的發展，這些成績的取得是與遼寧市領導和全市人民環環相扣、努力工作分不開的。這次來遼寧，不僅要參加大會開幕式、項目洽談等活動，還將進行文化交流，感謝遼寧市領導為我們提供這樣的機會，我們訪問團成員不僅有政府官員、教育界人士等，還有眾多企業家，希望成為大數的好朋友，共同促進中日友好。

馬金忠和小松昭夫互贈禮物。

據了解，該團9月6日，在東山日 考察後返回日本。

HNS研究所

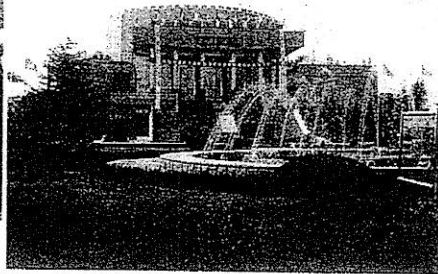
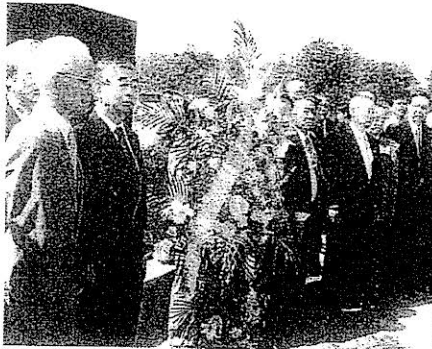
四体銅像の除幕送出式

小松所長は来年の台児荘大戦

65周年記念行事基金百万円を寄付

小松電機産業株(松江市乃木福富町七三五)一八八、松江湖南テクノパーク内、小松昭夫社長が運営するHNS人間自然科学研究所(小松昭夫所長)が、日中国交正常化三十周年を記念して主催した「第四回訪中文化経済交流団」が九月四、八日、百名近くが参加して山東省を訪問した。今回の訪問で、HNS研究所と山東省滕州市人民政府は、共同で自然健康法研究センター建設のため調印した。日中偉人の銅像を、中国を代表する思想家である孔子と孟子、その思想を受け出雲の治水に多大な貢献をした、周藤彌兵衛、清原太兵衛、21世紀は水の時代、より多くの人にこれらの偉人のことを知ってもらいたい、という目的で、HNS研究所では、前々回の交流団訪中の際に、中国画報協会を通じ、雲荘市に銅像製作を依頼していた。今回、銅像完成を記念して除幕送出式典が開催された。

九月七日に雲荘市招商局広場で行われた式典には、中国山東政協副主席の王久祐氏も出席した。この外、各界



一行は台児荘大戦記念館(右)を訪れた。大戦記念行事基金百万円寄付(左)



台児荘大戦記念館に寄付

来年は、歴史的な「台児荘大戦」から65周年を迎える。交流団は「台児荘大戦記念館」を参観、小松所長が献花するとともに、来年に行われる「台児荘大戦65周年記念行事基金」として一〇〇万円を寄付した。こうした活動に対して中国政府からも高い評価を得ている。小松所長の日中交流の促進を、世界恒久平和の実現に繋がるものとして期待されている。右から孟子像、孔子像、周藤彌兵衛像、清原太兵衛像

2002年(平成14年)11月18

日本海新聞

東洋美術が縁

日仏中の文化・経済関係者

燕趙園で交流深める

東洋美術に造詣(けい)深いフランスと中国の文化、経済関係者を招いた懇親会が十七日、東郷町引地の中国庭園・燕趙園で開かれ、両国との交流に結びつける取組の内の各団体が、フランス国立ギメ東洋美術館中国



東洋美術に造詣(けい)深いフランスと中国の文化、経済関係者を招いた懇親会が十七日、東郷町引地の中国庭園・燕趙園で開かれ、両国との交流に結びつける取組の内の各団体が、フランス国立ギメ東洋美術館中国

3カ国の友好交流を望み合うデロシュさん(左から3人目)、孔さん(右端)ら17日、東郷町の依水飯店。社長)が来賓、燕趙園に孔子と孟子の銅像を寄贈する計画であることから、現地視察のため訪れていた。燕趙園を視察した邢さんは「中国の古い都の特徴が忠実に再現されている。聖人の像が設置されることもっと素晴らしいと感心した」と述べ、

「河北省たり子」の交流を深めたいと述べ、

「第四回訪中文化経済交流団」

2002年9月4日～8日

台児荘大戦記念館 献花 大戦65周年記念事業として100万円寄贈



孔子・孟子・周藤彌兵衛・清原太兵衛

四体の銅像除幕送出式



「中国・中海・道湖圏文化経済交流会」

2002年11月16日

於 小松電機産業セミナーホール



日・中・仏 交流会

2002年11月17日

於 燕趙園



北京の中國人會堂で、平山を

燕趙園二十景

龍
フットボール・展示ホール)
中国来品の展示・中国園
の展示をしています。

マルチシアター
燕趙園が運ばれた経緯や本場
中国の庭園などをビデオで紹
介しています。

天池山
石山の頂に小さな池があるこ
とから名付けられました。石は
河北省・燕山脈の産。

飛雲瀑
飛んでいる雲のように流れ
注ぐ滝です。

一景亭
燕趙園の最も高い位置にあり
全園の景色が一望できます。

荷池
四面荷風樹から眺める荷池は
みごと。見頃は7月中旬～8月
中旬。

七星橋
高く伸びるアーチ型の橋は、七
彩の虹を現しています。

迎水坊
皇帝が船遊びをする時の船着
場をイメージして作られた皇
帝を迎える門です。

集賢館

管理事務所

銅像位置

チャイナドレスで
撮影して頂きたい
チャイナドレスレンタル
燕趙園管理事務所
にお申し込みください。
大人 500円 子供 300円

金山湖橋
(御野飛江バーナー)

鳥船子まで特設の方は、
ご入場の際、要付(遊園中心)に
必ず申し出ください。

燕趙門と影壁
燕趙園の主要な出入口。皇帝
色の琉璃瓦を葺き、堂々たる
たたずまいを見せています。

華夏堂
燕趙園の中心となる大軒で、燕趙も
の動物の池、皇帝のシンボルである
金の龍が多数描かれています。

四面荷風樹
「荷」は日本語で「蓮」のこ
と。蓮の葉に囲まれているよう
まるで水面で漂っているよう
な趣を感じさせます。

三景軒
石の彫掛けに磨くと、窓から、
荷風樹・華夏堂・一景亭の三つ
の景色が望めます。

鳥船子まで特設の方は、
ご入場の際、要付(遊園中心)に
必ず申し出ください。

らくらん1階コーナー
鳥船子までご利用の場合